

第96回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2017年6月12日 (月) 14時～17時

兼題「羽抜鶏」

- 川井素山 ○余花の雨三味に更けゆく津軽かな
紫陽花や娘の招くそば処
籠なれど己が世界の羽抜鳥
新緑の風の誘ふ遠出かな
- 保井寶正 ○街路樹の袴となりぬ^{さつ}杜^き花かな
羽抜鶏瘦軀のモデル相似たり
短夜や昔の手記に詩を^{しる}誌す
へちま苗日除になりて実はひとつ
- 後藤克彦 ○係留の錆の目立てる梅雨の船
羽抜鶏視線気にせず雌を追ふ
田の隅に伸びに伸びたる余り苗
蠅一匹追いかけて回し疲れたり
- 佐久間喬 ○断捨離し胸を張りをり羽抜鶏
泰山木凜と咲きゐる空の紺
僧一人佇み眺む夕牡丹
雨の朝上着だけでも衣更え
- 丸山酔宵子 ○木漏れ日に深呼吸す奥伊香保
前割りの焼酎滲みる桜島
パンくずをつつく銀座の羽抜鳥
黒髪が風に乱れて七変化
- 菊地崇之 ○羽脱鳥草御簾梳きし関の声
見悶えるビニールハウス氷雨かな
風薫る夕餉の席の^{けしき}顔色見る
休日や網戸雨戸し昼日中
- 吉田啓悟 ○浮世とはかくありなんと羽抜鳥
思ひだすためあぢさゐりに近づけり
風生まれ風の行く末夏木立
うたた寝やかすかに聞こゆ雷の音

- 青木英林 ○紫陽花の頃に引き立つ鄙の寺
ダービーを良き血統が制圧す
羽抜鳥土蹴散らして憂さ晴らし
枇杷を食む^{みずみず}瑞瑞しくも^{ふる}故き味
- 佐久間たか子○山若葉^{やまじよ} 山女 ファッション列なして
乳白の掛流しああ若葉風
艶薄れ哀れおのれや羽抜鳥
野山より吹いて鼓動の麦秋や
- 山本草風 ○若き母眩し双丘夏すがた
羽抜鶏狙ふ狐は思案顔
夏施餓鬼瘦せた坊主の説教かな
近隣の子の声響く五月晴
- 金森純女 ○自転車を二人乗りする青田かな
羽抜鳥遠慮しいしい時づくり
身の丈を超えし紫陽花藍深し
ザリガニを掲げて進む里の子ら
- 佐伯兵庫 ○羽抜鳥今に見ておれ婿養子
暑気払い二人が飲めるバザーかな
蛭狩愛を求めて踊る闇
横須賀で北にそなえる海の日よ
- 渡辺鯨波 ○花つつじ妻の饒舌衰えず
羽抜鶏威風堂々と村役場
百歳の自撮りのポーズ五月富士
老々のラジオ体操百日紅
- 澁谷瑠璃 ○夕立が虚飾の街を流し去る
レース編む“あなた”のいない歌の中
^{かざきりば}
風切羽落ちては飛べぬ羽抜鳥
毒隠す脳味噌持たぬ海月かな
- 石川智子 ○羽抜鳥よろめきなおも踏みだせる
夏柳人魚は眠り月ゆれる
夏木立宿す陽のなか君を待つ
雲の向こう何を運ぶか南風
- 原 晶如 ○ビール飲む少し嘘つく男たち
首傾げ機影とらへる羽抜鶏
梅雨どきの水のねばれる鎖樋
駅前の運河に熟れて桜の実

次回「萩句会」

日時 2017年7月10日(月)14時～17時

場所 下目黒住区センター第二会議室

兼題 『夕立、白雨』一句 当季雑詠三句 計四句